

■『継承』(31章)

*モーセはいかなる者だったのか。「…主を恐れることを学ばなければならない」(13節)

- ①自分自身を知っていた人…モーセは自分の死期を悟り、最後になすべきことを知っていた。
- ②まことの神を知っていた人…モーセは過去、現在、未来を見据えて、神を賛美している。
- ③人を知っていた人…モーセは自分の後継者にヨシュアを任命し、新しい指導者として立てた。
- ④モーセは、民のために書き終えたみおしえを、レビ人、部族の長老たち、つかさたちに託した。

■『歌のことば(Ⅰ)』(32:1~18)

1. 主は真実な神(32:1~4)

- ①「天よ…地よ」…神ご自身が創造されたこの世界にいるという確信と喜び、そして感謝である。
- ②「私の教えは」…神のことばは心の奥深くに浸透し、渇いた魂を生き返らせ、新しい力を与える。
- ③「栄光を私たちの神に」…創造主なる神は私たち人間を神に栄光を帰すために造られた。
- ④「主は岩」…主は私たちを保護される方、ご自身のみことばと約束に対して真実な方である。

2. 不真実なイスラエル(32:5~9)

- ①「自分の汚れで」…真実な神に、真実をもって答えない、神の恵みがないがしろにする民。
- ②「昔の日々を思い出し」…過去から学ぶこと、歴史から教えられることは必要なことである。
- ③「いと高き方が」…国境問題、領土、相続地など、全世界を治めておられるのは神である。
- ④「主は測り縄で」…憐れみ深い主はご自分の民イスラエルにゆずりの地を与えられた。

3. 深いきずな(32:10~18)

- ①「主は荒野の地で」…神はイスラエルの民の全生活面にわたって行き届いた配慮をされる。
- ②「地の高い所に上らせ」…神の恵みは荒野に限らず約束の地に入ってから将来にまで及ぶ。
- ③「足で蹴った」…イスラエルの民は繁栄の中で主の恵みを忘れ、背教の道に陥った。
- ④「神を忘れてしまった」…十戒の第一戒、全生活の基盤となる戒めさえ破ってしまった。

まとめ:

- ①聖書を通して啓示される主なる神はどのような方ですか。
- ②ご真実な神に対して、私たちはどのような者ですか。
- ③主なる神はなぜご真実を示し続けてくださるのですか。
- ④憐れみ深い神に対して、私たちが忘れてはならないことはなんですか。

「わがたましいよ 主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ 聖なる御名をほめたたえよ。
わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」(詩篇103:1, 2)